

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 25 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20402040

研究課題名（和文）ブラジル日系コロニアにおける再生産構造をめぐる現地調査

研究課題名（英文） Social Analysis on the structure of reproduction in Japanese Colonia in Brazil

研究代表者

紀 葉子（KINO YOKO）

東洋大学・社会学部・教授

研究者番号：40246781

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会科学B・社会学

キーワード：社会学、日系ブラジル人、再生産、社会分析、エスニックアイデンティティ

1. 研究計画の概要

本研究の主たる目的は現代社会学を代表する研究者の一人であるピエール・ブルデューの社会学的知見を背景に、日系ブラジル人社会における再生産構造について現地調査を下に分析してゆくことである。ブルデューが晩年に試みた、複雑化する社会の中でみえにくくなっている他者の苦悩に対する「理解」の回路を開く「社会分析(Socio-Analyse)」を現地調査に取り入れることで、日系コロニアへの共感的理解が可能となるような研究を試みる。質問紙を用いた調査によって基本的な項目を把握した上で、インタビュー調査に臨みむと同時に、対象者に対する「象徴的暴力」を調停しようとするような調査に努めたい。ブラジル社会において中間層を形成している日系人の文化資本の伝承がどのようなものであるのかを分析してゆく。

2. 研究の進捗状況

研究の初年度である 2008 年度には、サンパウロ老人クラブ連合会の協力を得て、老人クラブ連合会主催の行事や教室に通う人々を対象に調査紙を用いてアンケート調査を実施した。その結果を踏まえ、翌 2009 年度よりサンパウロ老人クラブ連合会で聞き取り調査を開始した。その結果、当初の仮説であるところの文化資本の高い層が子どもに教育投資し、高い大学進学率につながるということは、必ずしもブラジルの日系コロニアにはあてはまらないことが明らかとなった。文化資本の内容自体を精査する必要があるものの、子どもを大学に進学させた層の教育水準は必ずしも高くはなく、むしろ、想定を越える低さであった。子ども移民として日本の小学校を卒業しないままブラジルの地に同行させられ、その後の入植地でも満足な

教育を受けることができなかった層のこどもの大学進学が高いことに注目しつつ、学びへの渴望が教育的成果をあげた実態に迫った。自らの教育機会の剥奪を補うかのようにこどもの教育に重きをおいたり、あるいは子ども自らが教育の必要性を痛感して働きつつ学べる夜間大学への進学を果たしたりしているようなケースも少なくなかった。また、日本文化の伝承に関して、世代間に継承される文化としての側面よりも、再創造された日本文化の側面が強いことにも着目し、日本語教育、ならびに身体文化のありようを観察、分析する必要性を覚えたことから、2010 年度には引き続きサンパウロ老人クラブ連合会でインタビュー調査を行うと同時に、日本語教室や、非言語文化の伝承をみてゆくために沖縄県人会の協力の下、琉舞教室等でのインタビュー調査を実施した。

3. 現在までの達成度

概ね順調に進展している。

当初の予定であるところの伝承文化としての日本語教育を中心にした高等教育の再生産構造の分析からさらに対象を広げ、非言語文化をも視野に入れて、より多様な文化資本を分析の対象とした。対象が広がることにより研究が拡散する傾向にあるものの、研究の主軸である再生産構造の分析自体にブレはなく、むしろ、研究内容の豊富化につながると考える。

4. 今後の研究の推進方策

現在までの調査結果を整理し、サンパウロ人文学研究所の現地研究者にこれまでの研究成果についてのレビューを受け、研究の客観化に努めつつ、研究成果の発表を進めてゆきたい。また、当該研究課題によって紡がれ

た国内外のネットワークを維持しつつ、さらに深く身体文化も含む文化伝承の比較研究へと発展させてゆきたいと考えている。エスニックアイデンティティを支えるために再創造される文化活動が、現地の3世代によって実践されている現実を追ってゆきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

フィールドノート 日系コロニアにおける二つの文化伝承 ~琉舞と煎茶~、紀葉子、東洋大学大学院紀要第47集、査読なし、247~256頁、2011

サンパウロ日系コロニアにおける老人クラブ連合会の社会的機能~大都市における高齢者の社会生活を支えるネットワーク~、紀葉子、福祉社会開発研究第3号、査読なし、15~28頁、2010

サンパウロ、カロン地区における地域福祉活動の試み~日伯援護協会による奄美事業所跡地プロジェクトの現状と課題~ 紀葉子、福祉社会開発研究第2号、査読なし、71~80頁、2009